

令和2年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要  
農産・蚕糸部門

農業経営への女性参画による経営発展や地域振興の実現

- 氏名又は名称 長谷川 信枝・長谷川 吉弘
- 所在地 福井県あわら市
- 出品財 女性の活躍（水稻・そば・園芸）
- 受賞理由

・地域の概要

あわら市は、福井県の最北端に位置し、九頭竜川以北に広がる水田地域、野菜・果樹生産が盛んな丘陵地域、里地里山の風景が広がる山間地域など、多様で豊かな環境が備わっている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

長谷川信枝氏は、夫の吉弘氏を手伝う形で就農後、大型特殊機械やフォークリフトの免許取得や、農業簿記を受講して青色申告での経営管理を行うなど、経営発展に積極的に取り組んできた。就農当初は約2ha規模の家族経営だったが、その後、長谷川農園株式会社として法人化を果たし、100ha規模の法人経営に拡大している。

・受賞者の特色

(1) 省力化・低コスト化の取組

9品種以上の水稻を作付することで作期拡大や労力分散を図りつつ、育苗箱の播種量を通常の1.5倍に増やして単位面積当たりの育苗数を減らすことで生産コスト、労働時間を削減している。また、農地中間管理事業を活用して地元北潟地域の5～6割の農地を集約し、作業効率化による低コスト化を実現している。

(2) 6次産業化の推進

水稻やそばに加え、ブルーベリーも生産しており、加工施設を整備してジャム等の加工品の生産・販売に積極的に取り組むなど、地域における6次産業化の先駆的存在である。現在は、地域の女性専業農家のグループとともに加工販売や、摘み取り体験という観光型農業により地域活性化にも貢献している。

(3) 女性の活躍

女性専業農家のグループに所属し、農業簿記や家族経営協定等についての勉強会の企画や、大型機械・フォークリフト免許の取得等、女性が活躍できる環境づくりに取り組んできた。また、家族経営協定書で役割分担や就業規則を定め、家事労働も労働時間とみなす等、女性が無理なく働ける環境を整えている。

・普及性と今後の発展方向

大型機械等の免許取得や青色申告による経営管理等を通じた経営の規模拡大、家族経営協定による家族間での役割分担の明確化等、女性が積極的に活躍できる新たな経営モデルを示した。今後は、受託農地の拡大を図るとともに、そばの6次化を視野に入れた新たな加工施設整備、ドローン等先進技術の導入、地域の担い手育成等、企業としての地域貢献や女性が活躍しやすい環境の拡大を目指している。

令和2年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要  
園芸部門

「一島一家」の取組で高品質果実の安定的な生産・出荷体系を実現

○氏名又は名称 JA えひめ中央 釣島支部（代表 池本 雄吉）

○所在地 愛媛県松山市

○出品財 経営（かんきつ）

○受賞理由

・地域の概要

釣島支部の生産園地が所在する釣島及び興居島は、愛媛県の松山沖に位置し、かんきつ産業が盛んな瀬戸内海の小さな離島である。年間平均気温16.1℃、降水量1,297mm、日照時間2,188時間と、降雨が少なく日照時間が長い温暖な気候である。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

JAえひめ中央釣島支部は、19人の部会員により釣島と興居島の一部でかんきつ生産を専業に行っている。平成20年頃までは宮内伊予柑を中心に栽培していたが、価格の低迷等により支部全体で品種構成を見直し、「紅まどんな<sup>\*</sup>」や「せとか」等の優良な新品種への転換と、施設栽培等による高品質化・ブランド化に積極的に取り組み、経営の安定化と高収益化を図っている。

※愛媛県オリジナル品種「愛媛果試第28号」のうち一定の品質基準をクリアして出荷されるもの。

・受賞者の特色

（1）優良品種への転換と施設化の推進

JAえひめ中央釣島支部では、経営リスクや労力を分散し経営の安定化を図るため、品種構成を見直し、高収益が見込める品種への転換を推進した。また、岩盤が固く地下水の利用が困難なため、貯水タンクを設置し雨水の効率的利用を図るとともに、「紅まどんな」等における施設栽培を推進し、果実の高品質化、ブランド率向上を図っている。

（2）「一島一家」の取組

釣島には「一島一家」という言葉があり、自分だけでなく皆で栽培技術の向上、高品質果実の安定生産を目指そうという高い意識を持ってかんきつ栽培に取り組んでおり、部会員同士でお互いの園地を見回り、意見交換や情報提供をし合っって切磋琢磨している。こういった小さな離島ならではの取組が栽培技術の向上、高品質果実の安定生産に繋がっている。

・普及性と今後の発展方向

収益性の向上と経営リスクや労力の分散を考慮した品種構成と支部全体の高い栽培技術は、経営の安定をもたらし、離島にもかかわらず後継者が確保されており、園地の次世代への継承が円滑に図られている。また、これらの取組は、島しょ部における産地の優良モデルとしてかんきつ産地の持続的発展に向けて貢献している。今後は、園地の団地化を進め、作業の効率化・省力化に取り組むこととしている。

令和2年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要  
畜産部門

究極の資源循環型酪農－牧草だけで超低コスト牛乳生産－

○氏名又は名称 石田 幸也、石田 美由紀

○所在地 北海道枝幸郡枝幸町

○出品財 技術・ほ場（放牧）

○受賞理由

・地域の概要

枝幸町は、北海道の道北地域に位置し、夏は冷涼で過ごしやすく、冬の降雪は200cmを超えるが、年間降水量は1,300mmと少ない。町の主要産業は漁業で、毛ガニの漁獲量は全国一である。農業では酪農が盛んで、農業産出額の97%を酪農が占める。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

夫妻は、資源循環型の放牧酪農を目指して平成7年に枝幸町へ入植し、採草地も含め化学肥料の無施肥を平成17年に、成牛への濃厚飼料無給与を平成25年に達成した。牛乳生産費を北海道指標の半分以下の水準に引き下げることで、高い収益性を実現している。また、放牧研修会を主催し技術普及にも努めている。

・受賞者の特色

(1) 牧草だけからの牛乳

高品質な牧草生産、放牧適性の高い牛群管理等により、牧草のみで1頭当たり年間乳量5,440kgと放牧主体のニュージーランド酪農の4,150kgを上回り、乳脂率も4.2%と高い飼養体系を確立した。飼料代、労働時間などの大幅な削減により、牛乳の生産費は北海道指標の半分以下となっており、所得率は北海道指標を大幅に上回り、ゆとりある高い収益性を実現している家族経営である。

(2) 自然循環に基づく自給飼料生産

夫妻は地域環境保全への認識が高く、草地に化学肥料を用いず、堆肥、発酵処理したふん尿、貝化石、炭カルを施用する低コストな自給飼料生産を行っている。放牧地の牧草密度は高く、また牛の嗜好性が高いマメ科牧草の割合が高く維持されている。

(3) 地域への貢献

幸也氏は平成15年に「もっと北の国から楽農交流会」を設立して、代表として研修会等を開催し新規就農希望者の支援に努めている。

・普及性と今後の発展方向

酪農経営の課題である飼料自給率向上、労働時間の低減の先駆的モデルとして、国際競争力にも十分に対応できる生産システムであり、土地制約の少ない地域における低投入で持続的な生産技術として発展することが期待される。

令和2年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要  
林産部門

流域の水源林を守りながら、優良大径材を生産する林業経営体

○氏名又は名称 磯村産業株式会社 倉淵事業所（代表 磯村 欽三）

○所在地 群馬県高崎市

○出品財 経営（林業経営）

○受賞理由

・地域の概要

高崎市は、群馬県の中央部に位置し、西部には県境を形成する山並みが連なる。この山域を源流とする利根川支流烏川が市を東西に横断するように流れており、標高400～800mではスギ・ヒノキ、標高800～1600mではカラマツが良好に成林している。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

磯村産業(株)は、明治時代に烏川流域の広葉樹林約1,036haを薪炭林として国から購入した。創業当時から全域が保安林に指定されており、「水を守り 森を守る」を経営理念としながら、森林の公益的機能の維持増進を目的とした森林経営を継続している。薪炭生産後の伐採跡地は植栽を進め、現在は約47%が人工林となっている。平成20年代半ばから経営の黒字化を意識し、森林経営計画の策定や機械化を進めた結果、素材生産量は10年間でほぼ倍増している。

・受賞者の特色

(1) 広大な社有林を生かした優良大径木の生産

100年以上にわたり、良質材の生産を目的とした森林の整備・管理を継続した結果、100年生以上のスギや広葉樹の優良大径木が社有林に生育しており、市場には出回らない規格の長尺材等、地域の需要に応じて供給している。また、適期の枝打ち、間伐によって年輪幅の均一な通直材を生産しており、群馬県の優良素材展示会に出品された素材は、これまで最優秀賞の受賞を20回以上獲得している。

(2) 先端技術の活用

タブレット端末を搭載したハーベスタによる造材データの記録、既設路網のデータ管理およびGPS端末による作業員への共有等、作業の省力化に向けて様々な先端技術を活用している。また、群馬県や日本技術士会群馬県支部と連携して、ドローンを活用した森林調査の検証フィールドとして社有林を積極的に活用している。

・普及性と今後の発展方向

自社の林業経営を持続するため、作業員の年齢構成の平準化や人材育成を積極的に進めている。さらに、森林組合や国有林からの請負事業量を増やすことで、機械稼働率を向上させ、経営規模を拡大していく見通しである。また、地上レーザー等により社有林の資源情報を収集し、大径木のデジタル管理等、情報の見える化を図ることで、プロダクトアウトからマーケットインへの転換による新たな需要拡大も見据えており、今後も水源林の保続的管理や地域林業への多大な貢献に期待できる。

令和2年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要  
水産部門

赤潮と向き合って生きていくー外海におけるブリ養殖ー

○氏名又は名称 鴨川 一平

○所在地 鹿児島県出水郡長島町

○出品財 経営（漁業経営改善）

○受賞理由

・地域の概要

長島町は、鹿児島県の北端部に位置し、長島・伊唐島・諸浦島・獅子島などの大小23の島々から構成されており、内海の八代海に面した各地域は静穏な入り江と早潮に恵まれていることで、多くの漁業就業者がブリ養殖業や沿岸漁船漁業に携わっている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

氏は、長島町伊唐島で代々漁船漁業を営んできた家に生まれ、鹿児島水産高校卒業後は、県内の専門学校に進学したものの、実家を出てからも長期休暇等で島に戻り家業を手伝っていた経験から、父の代で始めたブリ養殖業を継承することを決意し、平成18年に伊唐島に帰島し、現在に至っている。

・受賞者の特色

(1) 赤潮被害を契機とした外海養殖の開始

氏が漁業に従事して3年後の平成21、翌22年に八代海で発生した大規模な赤潮の発生により、深刻な経営不振に陥ったが、この赤潮を契機に地域で初めてとなる外海におけるブリ養殖に取り組むこととし、試行錯誤を重ねた結果、従来の内海と外海の性質の異なる漁場を活用することによる新たな生産体制が構築できた。

(2) 人工種苗の導入による早期出荷の実現と経営の改善

赤潮被害回避を目指して、新たに人工種苗を導入した。その結果、飼育日数の短縮により、早期出荷ができるようになるとともに、ブリが品薄となる夏場の出荷も可能となるなど、通年出荷体制が構築できたことから、ブランド化や経営改善にも大きく貢献し、水揚げ金額も向上した。

・普及性と今後の発展方向

外海養殖を開始するという挑戦をし、見事に経営改善につなげた本出品財の取組は、養殖産地に付きまとう赤潮リスクを分散し出荷体制の強化につなげられるという知見を提供するとともに、人工種苗を用いることによるトレーサビリティとサステナビリティの向上についても示唆を与えるものであり、いずれもが養殖産地が実現を渴望している要素であることから、モデルケースとして多くの刺激を他の養殖産地にもたらすものと評価できる。

令和2年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要  
多角化経営部門

と畜・加工・販売を一貫して行い、畜産の生産基盤を維持・強化

○氏名又は名称 株式会社ミヤチク（代表 有馬 慎吾）

○所在地 宮崎県都城市

○出品財 経営（牛肉輸出）

○受賞理由

・地域の概要

都城市は、宮崎県の南西端に位置する。同県は、温暖多照な気候で、平地から山間地に至る変化に富む地形と標高差により農地面積が少なく、水田と畑が半々であり、昭和30年代から集約型ハウス園芸や施設型畜産の展開が進み、今日では肉用牛繁殖を中心とした複合経営が盛ん。平成30年の県農業産出額は3,429億円で全国第5位、畜産はその約2/3を占める主要部門である。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

（株）ミヤチクの前身は、昭和46年に宮崎県都農町に（株）宮崎県畜産公社として発足。昭和56年に宮崎県高崎町（現：都城市）で（株）宮崎くみあい食肉と合併統合し、牛と豚のと畜・解体処理から加工・販売を一貫して行う産地食肉センターである。加えて、外食店の運営やJAグループの一員として養豚生産にも携わる。

・受賞者の特色

（1）対EU、対米輸出のため、海外の食品衛生基準を満たす食肉処理施設の導入

平成2年8月に高崎工場が対米輸出認定を受けてアメリカへの牛肉輸出を開始。令和元年8月には、宮崎牛の新たなマーケットとしてEUを想定した高い衛生基準と動物福祉に対応した新都農工場が竣工し、EUへの輸出も開始。日本からアメリカへ輸出される牛肉のうち約35%がミヤチク工場経由となっている。

（2）人材育成の機会の確保と低い離職率

（株）ミヤチク社内に教育委員会を設置し、新入社員に対する研修や階層別研修・部門別プログラムを実施している。特に、製造部門においては、（公社）全国食肉学校の認定資格である部分肉マイスターの資格を取得している担当者が、製造現場の内外で適宜技術指導を行っており、新工場に適応した高い水準での肉牛・肉豚の解体処理技術の継承が図られている。このような人材育成の機会が確保されることで離職率は低い水準となっている。

・普及性と今後の発展方向

地元経済発展のため、県内で生産された畜産物の需要を国内外問わず確保し続けることが命題となる。そのため、生産者の負託を受け、と畜・加工・販売を一貫して行うことで、良質の畜産物が今後も持続的に生産されることの一助となり得る営業活動を行うことが重要。そうすることにより、県内生産者は専ら生産に取り組むことが可能となり、生産物が国内外で高い評価を受けることは、生産意欲の向上にも繋がることから、生産基盤の維持・強化に大きく寄与することが期待されている。

令和2年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要  
むらづくり部門

楽しんで農業！ 農業資源をフル活用したむらづくり

○集団等の名称 農事組合法人ゆめ野山（代表 松本 正之）

○所在地 奈良県五條市

○受賞理由

・地域の沿革と概要

五條市は、奈良県の南西部に位置する。同市山陰町とその近隣集落は、中山間地域に位置しており、不整形な小区画の谷間の水田で水稻が作付けされ、各農家所有の小型機械での生産が行われていた。

農機具の更新費用の増加や後継者の不足により、集落の会合では度々営農問題が話題となったことから、平成20年に山陰町を中心とした5集落によるほ場整備に着手。工事と並行して営農組合を立ち上げ、安定した農業経営を目指すため、事業完了に併せて農事組合法人ゆめ野山（以下、（農）ゆめ野山）を設立した。

・むらづくり組織の概要

（農）ゆめ野山は、山陰町と周辺4町の受益農家64戸が全員参加の農事組合法人であり、作物の生産・流通・販売、農業施設の維持管理、資源循環型農業を展開。5集落の地域住民を巻き込み、農地資源、水資源（農業水利）、営農施設、有機性資源、農村コミュニティといった地域の農業資源を一元的に管理している。

・むらづくりの取組概要

（1）農業生産面

- ① 法人管理のライスセンターで出荷するブランド米の契約販売、JAとの全量播種前契約としている小麦、飼料用米、WCS及び加工キャベツ、梅農家との契約栽培のシソなど、法人経営の安定化に向けて、流通販売に取り組んでいる。
- ② 地域の用水源であるため池の取水後の管理・運用を一元的に管理し、効率的な用水管理を実施している。
- ③ 将来に向け持続可能な農業を実現するため、関係機関と連携し、ドローンによる水稻直播栽培やICTを活用したスマート農業の実証に取り組んでいる。
- ④ 畜産農家から牛糞堆肥を水田農家に提供し、水田農家からWCSや稲わらを畜産農家に提供しており、耕畜連携による有機資源の地域内循環を実現している。

（2）生活・環境整備面

- ① 多面的機能支払交付金を活用し、自治会と連携して水路、ため池の草刈り、住民参加による道路改修、地区の美化活動などを行っている。
- ② （農）ゆめ野山が主催する田植え後の「さなぶり」、稲刈り後の「収穫祭」は、非農家を含めた地域住民が参加する行事となっており、地元集落の職種や世代を超えた様々な人々の交流の場となっている。また、県法人協会が主催する「農業法人フェア」や市民交流イベント等には積極的に参加し、お米等の収穫物販売を通じて都市住民との交流も深めている。
- ③ 「さなぶり」や収穫祭は、（農）ゆめ野山の女性部が企画・運営を担っている。また、女性部は地区の老人会と共同で、水田畦周りや道路脇に花苗の植栽、地区内の子供達との巻き寿司体験会を開催するなど、活躍の場を広めている。

・他地域への普及性と今後の発展方向

本取組は、農事組合法人による集落営農を核としたむらづくりに成功している事例であり、今後の取組の発展が期待できる。

担い手経営体としての生産販売機能と農地などの地域資源の管理や環境保全機能等、公益的な機能を5つの集落で実現し集落の活性化に寄与している本取組は、全国におけるむらづくりのモデル事例になり得るものである。